

地歴公民科

主任 丸田 博臣

(1) 今年度の目標

- ①社会事象に関心を持ち、自ら学び、考え、社会をよりよくしていこうとする人間を育成する。
- ②「読書人」を育成する。
- ③文章を書く力、論述する力を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ・自分で学習する態度を養うため、教材のさらなる精選に努め、授業用プリントなどを工夫する。
- ・社会事象に興味関心をもたせるために、視聴覚教材の活用に努める。
- ・授業などを通じて、生徒に書籍を紹介し読書をすすめる。

(3) 授業アンケートの結果と分析

① 日本史

全体的に興味・関心は持っているといえる。学習方法について悩んでいる者がいるため、試験直前直後など授業の中で適宜アドバイスをしていく必要がある。

② 世界史

全体的にまじめに取り組み、興味ももっている。視聴覚教材も好反応である。

③ 地理

科目として選択した理由は異なるが、おおむね興味・関心を持っているといえる。ただ、2年生は自然地理分野の理解の差がその後の学習意欲の差に現れている。3年生は世界史や公民との関係を認識した学習ができている。

④ 倫理

一様に興味・関心を持って学習に取り組んでおり理解も深まっているようだ。ただ、講義中心になるため、授業に対して受動的な姿勢の者は緊張感を維持しにくくなる傾向にある。生徒の活動をより増やす工夫が必要だと感じた。

⑤ 政治・経済

授業の内容に興味・関心を持って取り組んでいるようである。新聞に毎日、目を通しことを勧めているが、忙しくて手が回らない生徒も多いようである。また、読書も進めているが1カ月に1冊読まない生徒もかなりいる。

(4) 今年度の成果と課題

- ・「日本史」
生徒の言語活動がまだまだ少ない。授業者の説明を聞くだけでは知識が定着せず授業そのものもつまらないものとなるため、一回の授業で少しでも生徒の作業時間を確保したい。
- ・「世界史」
知識の定着が十分でない生徒もおり、授業プリントの改善等を図り、一定の評価を得ているが、今後も続けたい。
- ・「地理」
空間的把握と資料からの考察に力を入れてきたため、暗記科目というイメージは変えられつつある。世の中の出来事と授業内容を結びつけ、生徒の生活に生かす工夫をすることが今後の課題である。
- ・「倫理」
抽象的な内容を取り扱うことから理解を深めるためには具体例を挙げながら進められた。ただ進度は遅れがちになり、センター試験のことを考えると一通りは触れておきたいので今後の方策について検討していきたい。なお、定期考査で論述問題を設定することで各自の思考の深化を図ること

はできている。今後、思想家の言葉や抽象的な概念を理解するために国語力をより高める工夫をしていきたい。

- ・「政治・経済」

週の始めの授業で、「世の中まとめて1週間」と題して簡単なクイズ形式で1週間の出来事を確認しているので、少しずつではあるが世の中の動きを知るようになってきていると思う。進度については、本編の授業で教科書の内容をすべてこなすことは物理的に難しい。さらなる教材の精選が課題である。